



Creative Application A20

知覚とメディア実装1

「アクセシビリティ」 多様な感覚へのアクセス

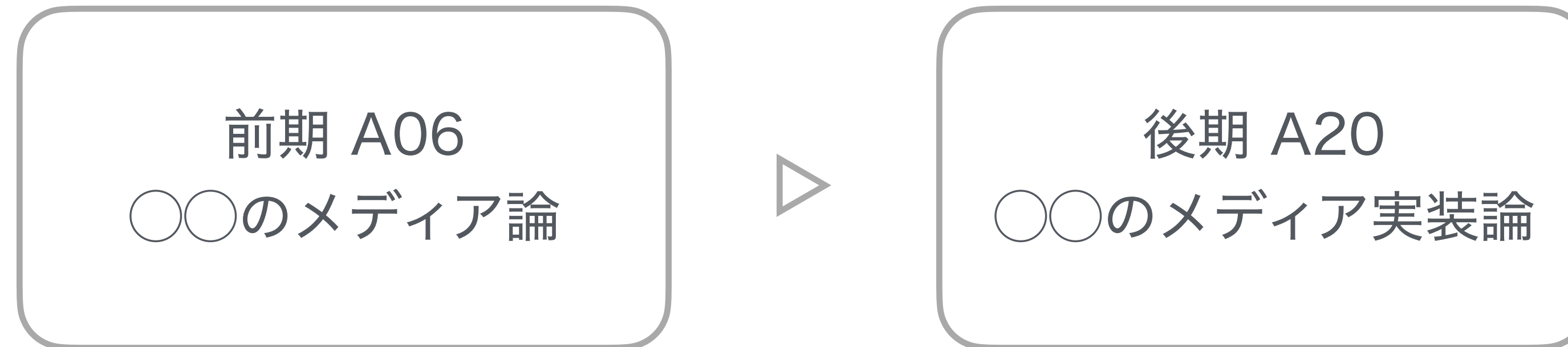
2023年度

渡邊 賢悟 (渡辺電気株式会社)

# 受講のてびき

---

- ・ 本資料は作成者の解釈が含まれます, 答えのない議論があります
- ・ 前半で1テーマの紹介, 後半でテーマを深める議論を行います
- ・ 前期と後期がリンクしています. 予習復習の参考にしてください



# 本日のテーマ

---

- ▶ **1つの情報・複数の経路・広がる意味**

# 前期概要

---

- ▶ 知覚の刺激から思考は変化していく
- ▶ 視覚表現の歴史から観察・思考・表現の変化を追った
- ▶ 視覚一つとっても、その解釈は絶えず変化した
- ▶ **多くの人への知覚刺激が、色々な解釈を生み、色々な表現に繋がった**

# アクセシビリティ

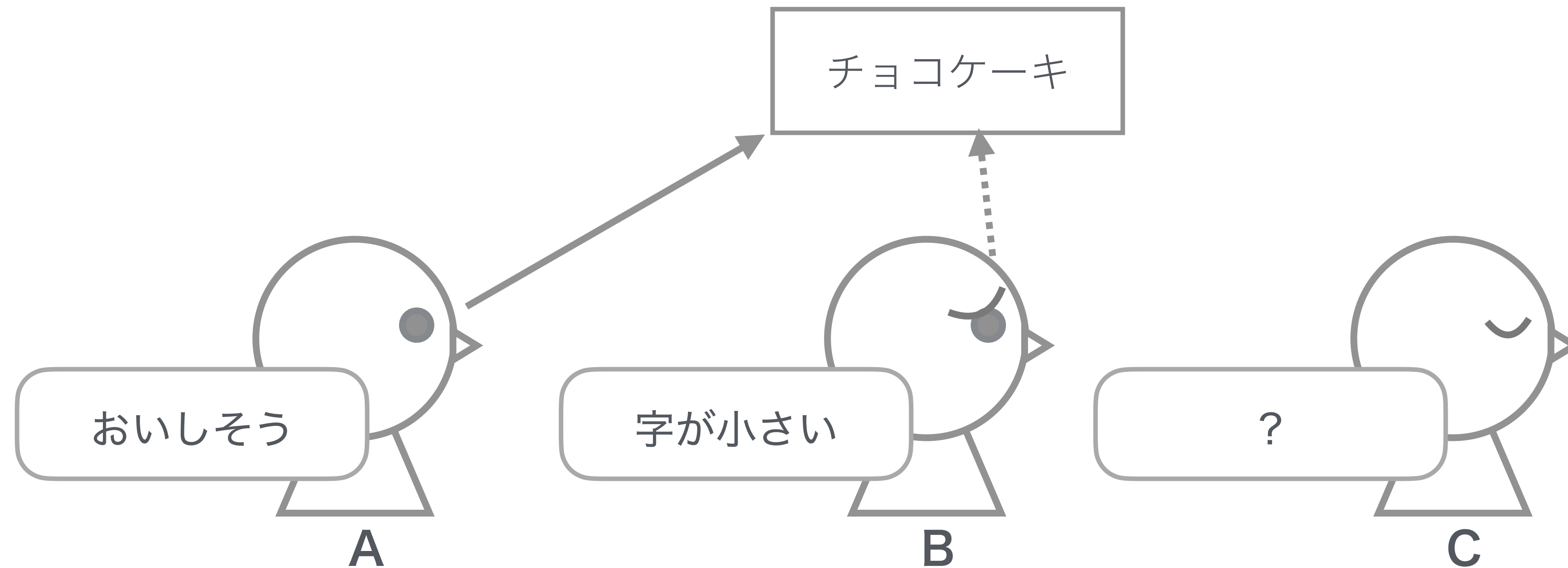
---

- ▶ 「近づきやすさ」「利用の容易さ」「利便性の高さ」などの意
- ▶ 情報への経路の増加は、接触人口の増加であり、解釈の増加である
- ▶ 解釈が増えれば、情報の価値に幅が生まれる
- ▶ また経由する知覚が変われば、異なる解釈も生まれる

# 単数知覚のアクセス

---

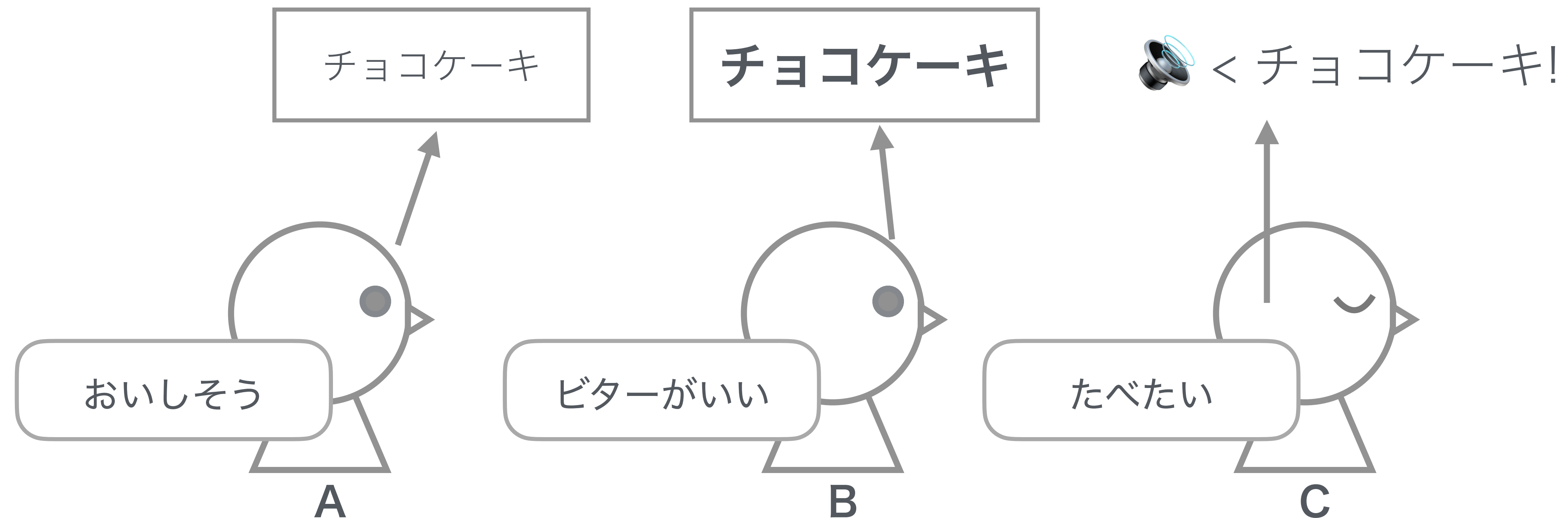
- ▶ アクセス経路が1つの場合, 触れられる人が減る
- ▶ 交流の阻害要因となりうる → **メディア化の質に余地がある**



# 複数知覚のアクセス

---

- ▶ 見せ方を複数用意する, 視覚と聴覚をそれぞれ用意する など
- ▶ 多くの解釈が発生し, 交流が活性化する → **メディアの質向上**



# まとめ

---

- ▶ メッセージングを知覚できる経路の確保が重要
- ▶ 受信者に届く経路がないとメッセージは届かずメディア化が進まない
- ▶ アクセシビリティ
  - ▶ 受信者の知覚特性を考慮して、メッセージングの方法を模索する
  - ▶ 伝わるだけに限らず、異なる解釈の広がりも価値がある
  - ▶ 接続しやすいアクセス方法を思索すると、メッセージの価値も上がる



# 本日の議論・考察一助

---

- a. メッセージングの内容と経由する知覚には相性はあるだろうか
- b. アクセシビリティを考慮するデメリットは何かあるだろうか
- c. **具体的なアクセシビリティの工夫と実践についての議論**

# 次回予定

---

## 知覚とメディア実装2

### 「マルチモーダル」複数知覚の融合

# 参考文献

---

1. 藤田一照, 「アップデートする仏教」, 幻冬舎, 2013
2. 藤田一照, 永井均, 山下良道, 「仏教3.0を哲学する」, 春秋社, 2016
3. 飲茶, 「史上最強の哲学入門」, 河出文庫, 2015
4. 飲茶, 「史上最強の哲学入門 東洋の哲人たち」, 河出文庫, 2016
5. 森田真生, 「数学する身体」, 新潮社, 2018
6. 西田幾多郎, 「善の研究」, 青空文庫, 1979
7. 藤田正勝, 「日本哲学史」, 昭和堂, 2018井筒 俊彦, 「イスラーム文化 - その根底にあるもの」, 岩波書店, 1991
8. 竹田青嗣, 「現象学入門」, NHK出版, 1989
9. 岡本 裕一郎, 「いま世界の哲学者が考えていること」, ダイヤモンド社, 2016
10. 西垣 通, 「AI原論 神の支配と人間の自由」, 講談社選書メチエ, 2018
11. マルクス・ガブリエル著, 清水 一浩訳, 「なぜ世界は存在しないのか」, 講談社選書メチエ, 2018
12. アレックス・オスターワルダー他著, 小山龍介訳, 「ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書」, 翔泳社, 2012
13. ティム・クラーク他著, 神田昌典訳, 「ビジネスモデルYOU」, 翔泳社, 2012
14. ティム・クラーク、ブルース・ヘイゼン他著, 今津美樹訳, 「ビジネスモデル for Teams」, 翔泳社, 2012
15. 沼上幹, 「組織デザイン」, 日本経済新聞出版, 2004